

グリーンレポート2005

Green Report 2005



ずっと地球で暮らそう。

CONTENTS

コスモ石油グループ経営理念	2
地球温暖化Q&A	3
ずっと地球で暮らそう。	5
広がる、行動の輪	7
環境コミュニケーション	8
国境を超えた、交流	9
未来へ エネルギー進化論	11
石油のライフサイクル全般にわたって環境負荷削減に努めます	13
環境中期計画	15
とにかく安全、それが原点	16
社会とともに持続的に発展していくために	17
トップメッセージ	18

グリーンレポートについて
このレポートは、コスモ石油グループのお客さまや、株主・投資家の皆さま、さらに多くの方々に私たちの環境保全に対する考え方や活動内容をご理解いただくために、2002年度より発行しています。

地球市民として

地球のために今できること、今すべきことを

コスモ石油グループは、これから先もずっと地球のすべての人々が、豊かに暮らしていけるよう、環境との調和と共生を追求しています。環境負荷の低減に力をつくすとともに、地球と人に優しいエネルギー供給に向けた取り組みを進めています。また、地球規模での環境修復・保全活動や、未来を担う子どもたちに環境の大切さを伝える活動をしています。



ゼロフレア・プロジェクト



地球環境保全プロジェクト



水素ステーション

コスモ石油グループ
経営理念

私たちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展を目指します。

企業として、また企業市民として

お客さまが心豊かに毎日を送るためのお手伝いを

安心と安全、そしてココロの充足がコスモ石油グループの企業活動の基本です。社会のニーズを聞きコミュニケーションを図りながら、エネルギー企業として価値あるサービス、より良い製品を提供しつづけたい。そのためには、誠実な経営と安定した収益を維持することが大切です。「お客さまに選ばれるエネルギー企業」であるために、地道な取り組みをつづけていきます。



Auto B-cleの展開



安全管理の徹底



クリーンキャンペーン

ずっと地球で暮らそう。

2つのスローガンについて

石油が人類にさまざまな恩恵をもたらしてきた一方で、その大量消費が地球環境に大きな負担を強いてきた事実。この事実を忘れず、地球と人と社会との調和と共生を重んじながら、新しい価値を提供できるエネルギー企業でありたい。
「ずっと地球で暮らそう。」「ココロも満タンに」の2つのスローガンには、コスモ石油グループのそんな思いが込められています。

ココロも満タンに

地球温暖化 Q & A

The Global Warming Q & A

地球温暖化と石油

Question 1

地球温暖化ってなに？



ANSWER 私たちは快適な生活をするためにエネルギーを使用しています。その際発生する二酸化炭素などの地球の熱を貯める働きを持つガス(温室効果ガス:以下GHG)が増加して、あたかも温室のように地球を暖めてしまうことを言います。この温暖化は石油などの消費によってGHGが増えることと、二酸化炭素を吸収(固定)してくれる働きをする森林が過度の伐採などで減少することの2つの理由で進行します。

Question 2

温暖化はどうして問題なの？



ANSWER 温暖化が急激に進むと、南極や氷河の氷が溶けて海に流れ込み、海の水位が上昇して人の住める場所が少なくなります。また、環境適応が追いつかず、いろいろな生き物が絶滅し生態系が破壊されたり、砂漠化が進行します。さらに、異常気象なども起きやすくなるなどさまざまな影響が発生します。

Question 3

温暖化を防ぐための仕組みはありますか？



ANSWER 2005年2月16日に「京都議定書」という国際的な取り決めが発効しました。これは、先進国のGHGの排出量に国毎の数値目標設定を行い、管理するものです。また、排出量取引などいわゆる「京都メカニズム」と呼ばれるような、国際的に協調し、目標を達成する仕組みも設けられています。日本はGHGについて、2008年から2012年の約束期間で、1990年比で6%の削減義務がありますが、逆に2003年排出量で1990年比+8%となっており、今から14%ものGHG削減が必要になります。

Question 4

コスモ石油グループは温暖化をどう考えていますか？



ANSWER 私たちの生活は、石油をはじめとする化石燃料を使用することでとても便利になっています。しかし、同時に石油の大量消費に支えられた私たちの生活スタイルが地球環境に大きな負荷をかけてきました。石油エネルギーを主に扱うコスモ石油グループは、この事実を真摯に受け止め、環境への取り組みをエネルギーの安定供給とともに、持続的な社会の実現に向けた企業の社会的責任の機軸と位置付けています。

Question 5

温暖化防止で、コスモ石油がしていることはなんですか？



ANSWER 私たちコスモ石油は、原油開発(採掘)からサービスステーションでの製品販売までの全ての事業領域で地球温暖化防止のための活動に取り組んでいます。また、次に示すように環境貢献・啓発活動、海外技術協力活動など、さまざまな取り組みを行っています。

▶ 環境貢献・啓発

石油製品は、お客さまが利用する段階で最も多くの二酸化炭素を発生させます。そのことから、当社は環境負荷の少ない製品の開発と提供に努めるだけでなく、お客さまと一体になった環境への取り組みが重要だと考え、気軽にご参加いただける環境貢献活動や、次世代の子どもたちを対象とした、環境教育活動を展開しています。また、より多くの皆さまに環境保全に関心を持っていただくため、テレビCMや新聞などを通じた環境広告活動を行っています。

詳細は5~8ページをご覧ください

▶ 海外技術協力活動

石油事業の中で深い関わりを持つ産油国や、東南アジアをはじめとする途上国の持続的な発展を支援するために、省エネルギー技術などを中心とした技術移転や、人材や文化の交流を行い、各国での環境負荷の低減に貢献しています。

詳細は9~10ページをご覧ください

▶ 総合エネルギー事業の展開

持続的な社会の実現や、「共生の社会」を目指し、環境負荷の少ない、新エネルギーの開発をはじめとする総合エネルギー事業を展開していきます。

詳細は11~12ページをご覧ください

▶ 石油事業での環境対策

「共生の社会」を目指し、事業内で発生する環境負荷をグループ全体で把握・管理し、軽減に向けて取り組むとともに、持続可能な社会の実現のために、環境保全策を推進しています。

詳細は13~14ページをご覧ください

ずっと地球で暮らそう。

地球市民の一員として「何ができるのか」「何をすべきなのか」を考え、企業の枠を超えて、お客さまや地域社会など、多くの人とともに環境保全活動を進めています。

お客さま・社会とともに
コスモ・ザ・カード「エコ」会員と
「ずっと地球で暮らそう。」
プロジェクトを進めています。



コスモ・ザ・カード「エコ」

「地球のために何かしたい」というお客さまの気持ちと、コスモ石油の気持ちの一つになってコスモ・ザ・カード「エコ」は生まれました。(裏表紙にご案内があります。)
「ずっと地球で暮らそう。」を合言葉に、地球温暖化防止をメインテーマとした地球規模での環境保全や、次世代を担う子どもたちへの環境教育支援などを行っています。会員数は発行以来約4年間で77,548人になりました。

プロジェクトに
簡単に参加できる
「クリック募金」

コスモ石油のホームページで、支援したい環境保全プロジェクトをクリックすると、クリックされた方に代わってコスモ石油が1円を寄付します。2003年2月から2005年3月までの寄付総額は6,643,210円に達しました。

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト

熱帯雨林保全プロジェクト

【パプアニューギニア/ソロモン諸島】

二酸化炭素を吸収する熱帯雨林の破壊が地球温暖化を加速させるものとして、大きな問題となっています。パプアニューギニアやソロモン諸島でも、急激な人口増加などの影響で、森の回復力を上回るペースで焼畑農業の耕作地が広がっています。私たちは森林への負担をかけない定地での循環型有機農業の普及を支援しています。



南太平洋諸国支援プロジェクト

【キリバス共和国】

温暖化が原因といわれる海面上昇で、井戸水の海水化や海岸線の浸食などの被害に直面する、南太平洋の島嶼国を支援しています。



循環型農業支援プロジェクト

【フィリピン】

今まで捨てられていたキャッサバの葉を再利用し、養蚕を核にした循環型農業による地域の持続的発展を支援しています。



学校の環境教育支援プロジェクト

【日本国内】

日本各地のNGOとともに、教育の現場「学校」での環境教育を支援しています。



シルクロード緑化プロジェクト

【中国】

農作物の不作による食糧不足や貧困などの問題を生む砂漠化の進行の防止を目指して、地域住民や地元政府とともに、シルクロードへの植林を推進しています。



秦嶺(シンレイ)山脈森林回復プロジェクト

【中国】

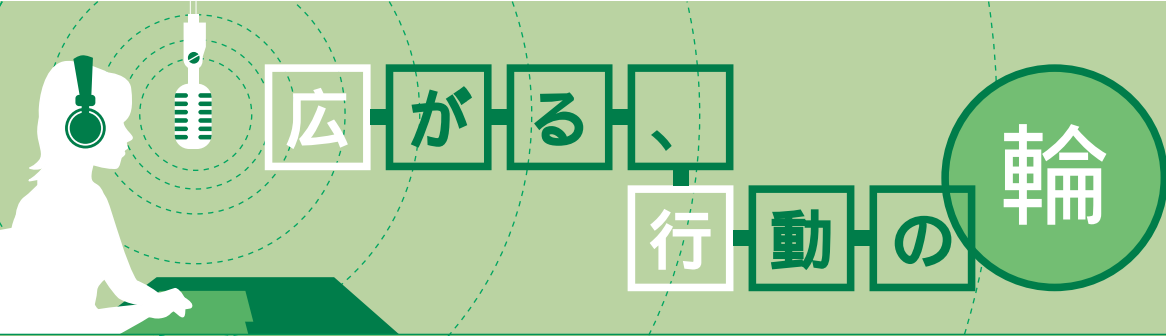
秦嶺(シンレイ)山脈では、森林伐採のつめ跡が残し、森の生態系が崩れています。植林を通して、本来の森を回復させるプロジェクトを開始します。



環境学校支援プロジェクト

【日本国内】

野口健さん率いるNPOとともに、富士山や小笠原諸島などで「環境学校」を開催し、環境に対して自ら行動できる子どもたちの育成を支援しています。



「業績に左右されない長期継続」「社員自らの参加」「当社オリジナリティ」の3テーマを基本方針として、広く世界の人たちに環境保全の大切さを呼びかけ、それに応えてくれた人たちとともに行動しています。

コスモ アースコンシャス アクト

「アースコンシャス」とは、「地球を愛し、感じるころ」の意味を込めた造語です。コスモ石油とTOKYO FMをはじめとするJFN(全国FM協議会加盟38局)がパートナーシップを組んで、地球環境の保護と保全を全世界の人々に呼びかけ、環境に対して自ら行動していこうというものです。

全国FM局と一緒に、環境保全を全世界に呼びかけていく活動をしています。

クリーン・キャンペーン

1年を通じて、自然と親しみながら環境活動を楽しんでいます。清掃活動以外にも、ライブ、スポーツイベントなどで、子どもから大人までが参加できるように工夫しています。

2001～2004年度の実績

実績:会場合計/164カ所 参加者合計/66,704名 ごみの総回収量/1,091,777リットル



アースデー・コンサート

1990年から、毎年4月22日の「アースデー」に開催しています。「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ～」のコンセプトに共感した、国内外のアーティストがコラボレーションし、地球への愛を歌い上げます。

2005年度の出演者/宮沢和史、東京スカパラダイスオーケストラ、一青窈(ひととよう)



野口健講演会&展示会

エベレストや富士山のごみに象徴される環境問題を取り上げ、皆さまと一緒に考える講演会を、2002年度から全国で実施しています。野口さんがエベレスト清掃登山から持ち帰ったごみなども展示しています。

WEB ▶ <http://www.tfm.co.jp/earth/noguchi/index.html>



ラジオ番組を通じて環境に関する話題を発信

FMレギュラー番組として、毎朝JFN38局のレポーターが生中継でその地域の自然環境の紹介や地元で環境保全活動に取り組まれている方へのインタビューなど、環境に関する話題を全国から発信しています。

「ずっと地球で暮らそう。」毎週月曜～金曜 午前6時40分～6時45分 5分番組 JFN加盟38局ネット

「コスモ アースコンシャス アクト」の最新情報はホームページで

クリーン・キャンペーンや野口健講演会&展示会の開催など、最新情報をお知らせしているほか、ラジオ番組「ずっと地球で暮らそう。」のプレゼント応募も受け付けています。



「愛・地球博」の「地球市民村」に協賛

「地球市民村」の事業コンセプト「持続可能性への学び」が、私たちの経営理念と主旨を共有していることから、協賛を決めました。コスモ石油では持続可能な社会を目指し、さまざまな取り組みを実行しています。さらに事業領域を超え、地球規模での環境修復・保全活動を展開するとともに、未来を担う子どもたちに環境の大切さを伝える活動も展開しています。

コスモ石油の「地球市民村」における活動

CO₂減少が目に見える! ~植物によるCO₂吸収実験~

愛・地球博「地球市民村」コスモ石油ブースでは、早稲田大学理工学術院三輪研究室と共同で、植物によるCO₂吸収実験を実施しております。この実験は、ご来場の皆さまに実際に参加していただき、植物がCO₂を吸収する様子をご自身の目でご覧いただく「体感型イベント」です。植物に光をあてることで、CO₂吸収実験装置の中心に設置されたドーム内のCO₂濃度が下がっていきます。普段は目に見えないその様子を、表示モニターにグラフとして映し出します。

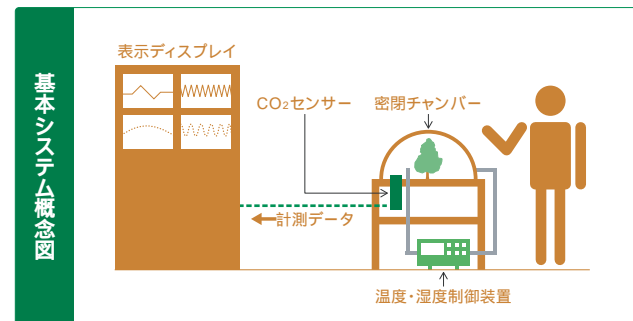
ほかにも「コスモ石油の環境活動」紹介ムービー&スライドショーなどをご紹介します。



コスモ石油ブース



CO₂吸収実験装置



基本システム概念図

「地球市民村」は、「愛・地球博」のテーマである「自然の叡智」「地球大交流」を具現化する博覧会協会企画事業です。「持続可能性への学び」を事業コンセプトに、国際的に活躍するNGO、NPOが一堂に集い、「自然・環境」や「国際交流・国際協力」の分野を主な軸として各自のプログラムを実施する「参加体験学習プログラム」展開の場です。

「コスモ石油ブース」の詳しい情報はこちら▶<http://www.cosmo-oil.co.jp/expo2005/>

Exchange that exceeds border.

国境を超えた、交流



事業活動において深い関わりのある中東や東南アジア諸国の持続的発展の一助となることを願い、また、友好関係を深めるために、技術協力や人材交流、文化交流を行っています。

[海外協力活動]

政府機関や海外の企業と連携して、さまざまな開発調査プロジェクトや省エネルギーモデル事業などを推進するとともに、技術やノウハウの移転のため、人材交流を継続的にを行っています。また、国境を超えた教育について考える国際カンファレンス「アブダビ(UAE):Philosophy “ education2003 ”」にも協力しました。

UAE石油精製設備での環境保全技術調査と、資源・環境保全技術検討の実施

イラン石油精製設備での環境保全技術調査の実施

インドネシア国営石油公社での省エネルギーモデル事業の実施

オマーン国営石油での製油所調査と、排水処理改善事業の実施



カタール石油



オマーン製油所



アブダビ技術短大研修生



四日市製油所でのUAE研修生

技術・人材交流を促進することで、環境負荷の低減にも努めています。

POINT 産油国アブダビでの活動

コスモ石油のグループ会社であるアブダビ石油や、日本アラブ首長国連邦協会を通じて、1960年代から今まで長年にわたって事業活動を超えた人材交流、技術提供、文化交流などを幅広く行っています。

■ アブダビ石油における安全・安定操業

アブダビで石油開発事業を行っているアブダビ石油では、環境に配慮した安全で健康な職場づくりに努めています。アブダビ石油の労働安全衛生・環境問題に対する取り組みは、アブダビ政府からも高く評価され、さまざまな賞を受賞しています。また、安全意識の高揚を目的に社内表彰を行っているほか、ニアミスレポート等の提出にも積極的に取り組んでいます。

[労働安全衛生・環境問題への取り組みで種々の賞を受賞]

2000年度のサワーガス圧入プロジェクトで最高位の受賞。さらに、2002年度から3年連続でアブダビ国営石油会社(ADNOC)より、さまざまな分野において栄えある賞を受賞しています。

■ マングロープの植林をはじめとする地域の緑化推進

アブダビ石油は、アブダビ市街にある現地事務所の敷地内に植樹したり、ムバラス島にマングロープを植林したりするなど、地域の緑化を積極的に進めています。



ムバラス島のマングロープ林

アブダビ現地事務所

裏庭の場沿いに植樹

POINT ゼロフレア・プロジェクトの効果

ゼロフレア・プロジェクトは、アブダビ政府からも高い評価を受け、2000年度に安全操業や環境保全に対して授与される最高賞を受賞しています。

■ 年間約20万トンの二酸化炭素を削減

原油を生産する時に一緒に生産される有害ガスを大気中で燃やすのではなく、元の地中に再び戻そうというのが、ゼロフレア・プロジェクトです。

コスモ石油のグループ会社であるアブダビ石油とその100%子会社が運営する3つの油田では、フレアスタックから燃えさかる炎(フレア)が消え、大気汚染の防止に貢献しています。このプロジェクトによって、年間約20万トンの二酸化炭素に相当する温室効果ガスを削減しています。

これは、東京ドーム約12,000個分の森林が吸収する二酸化炭素の量に匹敵します。



ゼロフレア・プロジェクト実施後

ゼロフレアの第一段階であるサワーガス圧入プロジェクトは、アブダビ国営石油会社(ADNOC)から高い評価を受け、2000年度の「ADNOC HSE AWARD」では、参加申請62件中最高位の「Supreme Winner」を受賞しました。

未来へ エネルギー 進化論

1960年代以来、現在に至るまで
大気汚染の緩和は社会的要請でありつづけています。
私たち石油業界はこれまで、一貫してより環境負荷の低いエネルギーへと、石油を進化させてきました。
これからも、さらなる品質改善に努め、未来に向けて、
よりクリーンなエネルギーを目指していきたく思います。

総合エネルギー
事業の展開

分散型電源事業

分散型電源システムは、病院・工場等のエネルギーを利用するその場で発電を行い、安価な電力を供給します。その時発生する排熱を有効利用することによって、エネルギー利用効率の向上を図り、CO₂排出量を削減します。当社では、分散型電源システム等の「エネルギーサービスビジネス」を実施しています。2004年度末のシステム成約実績はおよそ3万kWとなっています。

電力卸供給 (IPP) 事業

三重県四日市市の真地区に20万kWの発電所(四日市霧発電所)を建設し、2003年7月に運転を開始、15年間にわたり中部電力に電力を安定供給します。
また、四日市霧発電所は、所内に緑地や保全池を造成した、自然との調和を考えた施設になっています。



灯油用触媒



定置用燃料電池



JHFC横浜・大黒水素ステーション
と燃料電池車

keyword 01

水素エネルギー社会への挑戦

灯油を原料とした燃料電池用水素製造技術の開発

灯油を原料とした燃料電池用水素製造技術の開発に取り組んでいます。灯油燃料電池システムによる発電は、燃料コストが都市ガスに比べて2分の1程度に軽減できるという特長があります。一方で、都市ガスやLPGと比べて水素製造が難しいという特性があります。コスモ石油では、灯油を原料とした水素製造の触媒研究や市販灯油の1,000分の1以下まで硫黄分を低下させる脱硫技術の開発を進め、2007年度に電機メーカーと共同で1kW燃料電池発電システムを完成し実証試験を行う計画です。

LPG燃料電池を活用する実証試験スタート

三重県四日市市燃料電池実証試験に参画し、2005年3月から家庭用定置型LPG燃料電池の実証試験を伊坂ダムサイクルパークでスタートしました。
燃料電池で発生した電気と熱を利用し、エネルギーの有効利用に貢献しています。
燃料電池から発生する熱は、パーク内に新設した足湯の給湯に活用し、サイクリングやレジャーに訪れる多くの市民に足湯を楽しんでもらいながら、新エネルギーシステムを身近に感じてもらいたいと考えています。

水素ステーションの運営と水素充填技術の開発

JHFCに参画し、燃料電池車へ水素を供給するJHFC横浜・大黒水素ステーションの運営を2003年3月から行っています。この水素ステーションでは、水素製造効率向上技術や水素充填技術の検討も行っています。2004年3月から日産自動車(株)の燃料電池車「X-TRAIL FCV」を導入し、日産自動車(株)と水素充填技術の共同開発も行っています。

2005年4月末実績

運営日数	501日
累計水素充填台数	868台
累計水素充填量	11,816m ³

keyword 02

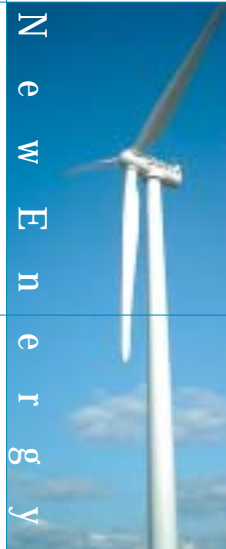
脱・大気汚染に向けた挑戦

コスモ石油では、他の石油連盟加盟各社と協調して2005年に、サルファーフリーガソリン・軽油の販売を開始しました。
排ガス対策の障害となっていた硫黄分がほとんどなくなったため、新排ガス対策技術が装備された直噴エンジンなどの、燃費の優れたCO₂削減効果の高い新エンジンの搭載された自動車の普及が期待されています。

keyword 03

人と地球にやさしい クリーンエネルギーへの挑戦

クリーンな再生可能エネルギーは、今でこそまだ安定性やコスト面、汎用性などの課題がありますが、社会の持続的発展には不可欠です。私たちコスモ石油グループでは、再生可能エネルギーの実用化に向けて、研究・技術開発や事業化に取り組んでいます。
その一つが風力発電です。コスモ石油では、山形県酒田市に1,500kWの「コスモ石油酒田風力発電所」を建設し、2004年12月から営業運転を開始しています。



石油のライフサイクル全般にわたって環境負荷削減に努めます

環境対策の流れ

「つくる」、「はこぶ」、「つかう」

のすべてのプロセスごとの環境負荷を把握。どうしたら効果的に減らすことができるかを考え、できることから実行しています。



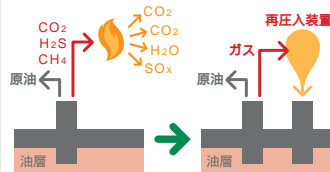
原油生産

環境対策

ゼロフレア・プロジェクトの効果

コスモ石油のグループ会社であるアブダビ石油とその関連会社が運営している3つの油田では、以前は大気中で燃焼させていた随伴ガスを地下の油層に全量再圧入することにより、SO_xやCO₂を排出しない「ゼロフレア化」を2001年5月に達成しました。炎が消え、年間約20万トンのCO₂削減につながっています。これは、東京ドーム約12,000個分の森林が吸収するCO₂量に匹敵します。

フレアとは随伴ガスを燃やした炎のこと

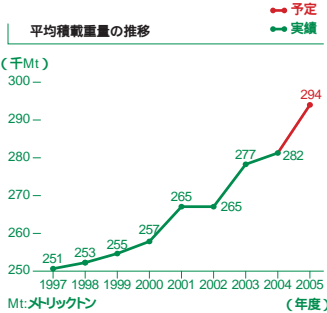


原油輸送

環境対策

タンカーの大型化

原油は、産油国から約20日の航海を経て日本に運ばれてきます。その輸送量は、30万トン級タンカー1隻で日本全国の消費量の1/2日分に相当します。輸送の効率化を図るために、20万トン級タンカーから30万トン級タンカーへの大型化を進めています。

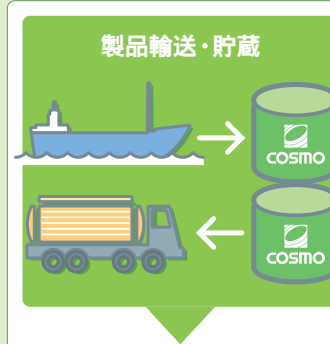
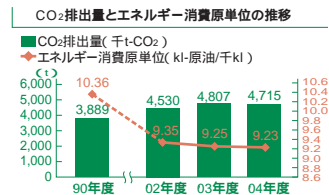


精製(製油所)

環境対策

製油所の環境対応

製油所では、高効率機器の導入、運転管理の改善など、エネルギーの有効利用に努めています。コージェネレーション装置、高効率の熱交換器の設置など省エネ技術の導入や、日常の装置運転において、蒸気や燃料使用量の管理強化などを実施しています。そうした活動の結果、2004年度のエネルギー消費原単位は、9.23kl・原油/千kl(1990年度比10.9%削減)となり、目標(2010年度までに1990年度比10%削減)を2年連続で上回りました。また、製油所では、大気汚染・水質汚濁防止、産業廃棄物の削減、化学物質の管理など、さまざまな環境保全の取り組みを実施しています。



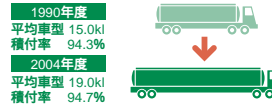
製品輸送・貯蔵

環境対策

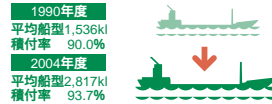
物流の効率化と省エネルギー

石油製品は、製油所から油槽所やSS(サービスステーション)などに向けて、タンクローリーや内航タンカーなどで輸送します。コスモ石油では、タンクローリーや内航タンカーの大型化、油槽所の統廃合、他社との共同化など、早くから物流システムの効率化に努め、省エネルギーに取り組んできました。

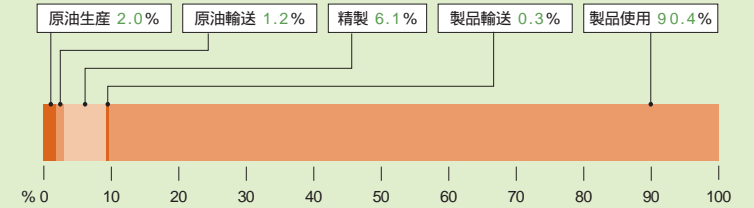
タンクローリーの平均車型と積付率



内航タンカーの平均船型と積付率



石油のライフサイクルにおけるCO₂排出量の比率



サービスステーション

環境対策

SS環境リスクマネジメント

環境管理ポイントの導入
2003年4月から「漏洩対応管理」や「設備点検」、「産業廃棄物対策管理」などに関する「環境管理ポイント(EMポイント)」を導入し、SSの環境リスクマネジメントを行っています。2004年度には、特約店のSSを含む約4,700カ所のSSを対象として、EMポイントによる評価を行いました。

SS環境管理ポイント(EMポイント)チェックシート

啓発活動の実施

環境管理の意識向上のため、啓発ビデオや、油漏洩の早期発見と土壌汚染の未然防止を目的として、「SS土壌環境サーベイブック」を利用しています。

社有の地下タンク検査の実施

2002年度より、自主的に地下タンクの検査を開始しました。現在までに、社有のSS(約900カ所)について検査を行い、結果に基づき、必要な対応を行っています。



研究所・オフィス

環境対策

資源の有効利用

ごみ分別の徹底
本社のオフィスから出る紙ごみについては、各フロアに「リサイクルボックス」を設置し、分別の徹底を図っています。



本社のリサイクルボックス

紙ごみの再生利用

本社の紙ごみは、「上質紙」「封筒類」「新聞」「雑誌」に分類し、集積所に集めています。集まった古紙は、リサイクル業者により回収され、再生紙の原料となっています。当社の2005年版カレンダーは、本社から出た古紙を含む再生紙を利用して作成しました。



リサイクル業者による回収

環境中期計画2002 - 2004年度(ブーア21)について

環境中期計画スローガン

環境で選ばれるコスモ石油

- 真の環境先進企業を目指す -

企業市民として社会的責任を果たす 環境保全と経済性の両立

→ 2002～2004年度に9つのテーマを設定し、取り組みを進めました。
また、2003年度からは「ゼロエミッション」「土壤環境対応」「グリーン購入」を重点テーマとして取り組みました。

テ マ	取 り 組 み	2002 - 2004年度の主な取り組み	関連頁
01 温暖化対応 CO ₂ 削減と 新エネルギーへの取り組み	省エネルギー 新エネルギー	製油所のエネルギー消費原単位(1990年度比)2010年度目標 10% 2004年度 10.9% 2004年度12月より山形県酒田市で風力発電を開始	12, 13
02 汚染物質の排出削減 法規制の遵守と 産業廃棄物の削減	産業廃棄物 大気・水質	2004年度産業廃棄物の最終処分率(埋立処分量÷発生量)目標1.5%以下 実績1.2% 製油所の大気汚染・水質汚濁物質の排出を法規制値以下に維持することを継続	-
03 土壤環境対応 実態把握・対応と未然防止の推進	SS 他事業所	環境管理ポイン(SS管理ツール)等の、啓発活動の推進、自主的な地下タンク検査実施 11カ所で土壤調査実施、全事業所で設備の維持管理と日常点検の徹底	14
04 省資源(オフィスクリーン) リデュース・リユース・リサイクルの 推進による一般廃棄物の削減等	紙 日用品	コピー用紙の使用量削減の推進、電算帳票160万枚/年削減実施 ゴミの分別回収の推進	14
05 製品の環境負荷低減 環境負荷の低い石油製品の供給	軽油対応 ガソリン対応	2005年1月より硫黄分10ppm以下のガソリン、軽油の製油所出荷を開始	12
06 グリーン購入 グリーン購入の拡大	資機材・工事・事務用品 グリーンサプライヤー からの購入	グリーン購入に関する社規を制定し、グリーン購入を実施	-
07 研究開発 環境技術開発と新エネルギー分野 での技術開発	石油製品 環境技術 新エネルギー	低硫黄ガソリン・軽油製造用の高性能触媒の開発を実施 排水処理装置余剰汚泥減容化システムの開発 天然ガスからの液体燃料製造用触媒の開発を実施	-
08 環境貢献プロジェクト 温暖化防止を中心とするプロジェクトの 継続的な展開	環境保全技術協力 「エコ」カードプロジェクト 社会貢献	環境関連技術の海外移転実施(ゼロフレア、省エネルギー等) 地球温暖化防止をテーマに 発展途上国支援、環境教育支援プロジェクト継続実施 「コスモアースコンジャスアクト」の実施、インターネットを使った環境教育サイト「エコネット」の運営	5,6,7 9,10
09 環境経営推進施策 環境マネジメントの継続的な推進と さまざまなステークホルダーへのコミュニケーション	環境マネジメント コミュニケーション	社員の階層別研修で環境教育を実施 環境関連出版物、広告、WEBによる環境情報の発信継続	裏表紙

→ 第2次連結中期環境計画(2005-2007) CSR経営推進のもと、環境リスクへの取り組みと企業価値向上への取り組みを柱にグループで推進

環境リスク案件 への取り組み	● 温暖化防止策	▶ 省エネの推進、 京都メカニズムの活用	企業価値向上 への取り組み	● 環境保全施策	▶ 社会環境貢献の継続、 その他環境負荷低減の推進
	● 有害物質/廃棄物対応	▶ 規制強化への対応、 産業廃棄物ゼロエミッションの推進		● 環境コミュニケーション	▶ 環境をキーワードとした社内外への 情報発信の継続
	● 土壤環境対応	▶ 土壌への油漏洩の未然防止と 発見時の適切な対応			

とにかく安全、それが原点

コスモ石油にとって、安全管理の徹底は企業活動の原点です。安全に関する行動指針を定めて、従業員のみならず、地域住民の安全の確保を図るとともに、地域社会との共生に努めています。

安全に関する行動指針

「安全、安定操業の維持発展を最重要課題の一つと位置付け、可燃物、高圧ガスを取り扱う事業所においては、従業員のみならず、地域住民の安全の確保を図るとともに、地域社会との共生に努める。」(コスモ石油グループ企業倫理規程より)

SAFETY POINT

01 未然防止と発生時の早期対応両面から安全管理を徹底しています

安全管理は、災害を未然に防ぐ「未然防止」と、万一災害が発生したときに被害を最小限に食い止める「発生時の対応」の二つの側面から取り組んでいく必要があります。当社では、製油所、油槽所、物流、SS(サービスステーション)の各段階で、この二つの側面について、ハード、ソフト両面の対策を実施して、安全管理の徹底に努めています。

未然防止・早期発見

ハード対策	ソフト対策
製油所・油槽所 設備設計時の安全性配慮 安全機器の設置 異常監視機器の設置	製油所・油槽所 運転管理・工事管理・設備管理の徹底 危険予知運動(KYT、ヒヤリ・ハット) 事故事例の水平展開 教育シミュレーターを活用した運転技術教育 小集団活動など
SS 設備設計時の安全性配慮 静電防除シートの設置 オーバーフロー防止設備設置	SS 顧客への静電防止啓発ポスター標示 誘導レーンの明示 禁煙標示 セルフSSでの従業員による監視

発生時の対応

ハード対策	ソフト対策
製油所・油槽所 防火消火設備、資機材の設置 保安用保護具の設置 大型化学消防車などの設置 棧橋にオイルフェンス設置	製油所・油槽所 災害対策組織の整備、確立 防火訓練 相互援助体制の整備 マニュアルの整備
SS 消火器、消火設備の設置 防火扉設置	SS 消火訓練の実施 防災教育の実施 SS危機・安全管理マニュアルの整備



総合防災訓練の様子



SS施設安全点検記録帳

SAFETY POINT

02 製油所などの安全操業の仕組み

所長をトップとする安全衛生委員会を組織して、さまざまな安全活動の計画策定や実績報告を行い、安全の確保に努めています。

SAFETY POINT

03 製油所におけるセーフティマネジメントシステム(SMS)の実践

2004年度は、「PDCA型の製油所安全管理システム(SMS)」を本格運用し、装置の安全性評価を実施してリスクのさらなる低減に取り組むなど自主保安の一層の強化に努めています。

SAFETY POINT

04 製油所の安全成績

2004年の製油所の操業事故は1件、従業員の労働災害数は休業災害1件、不休業災害2件でした。千葉製油所の無災害記録は延べ1,642万時間(2004年12月末現在)で、石油業界No.1を維持しています。

信頼

keyword 1

コスモ石油グループ経営理念

私たちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展を目指します。

「調和と共生」

地球環境との調和と共生
エネルギーと社会の調和と共生
企業と社会の調和と共生

「未来価値の創造」

顧客第一の価値創造
個の多様な発想による価値創造
組織知の発揮による価値創造

keyword 2

信頼される企業を目指して

コスモ石油グループでは、グループ経営理念を着実に具現化していくことが、さまざまなステークホルダーの皆さまから信頼していただける、そして、社会とともに発展することのできる企業の姿に繋がるものと考えています。

その具現化にあたっては、安定的な収益基盤の確立と、社会的責任(CSR)をしっかりと、そして積極的に果たして行くことを経営の両輪に取り組んでいます。

2005年度から、これまでの取り組みを整理し、次の3か年の新しい中期連結経営計画を始動させるとともに、CSR意識の全グループでの共有化や推進体制の強化、そして特に重点的に取り組む分野として環境/安全/人権・人事面の個別のアクションプランを包含する連結CSR計画を推進していきます。

keyword 3

CSR経営の推進にあたって

当グループでは、企業として「誠実な経営」を通し社会との調和と共生を図り、「個人が力を発揮できる企業風土」から未来価値を生み出し、また、エネルギーに携わるものとして「環境」を軸に持続可能な社会の構築に寄与することを、CSR推進の柱に据えています。2005年度から始まる連結中期CSR計画では、「CSR意識の高い企業体質と、ステークホルダーから支持される企業グループの実現」を目指し、次の5つのポイントに重点的に取り組みます。特に、グループ全体でCSR経営に取り組む最初のステップであることから、CSRを実践する従業員一人一人の意識が重要であると考えています。

キーワード

「コンプライアンス」
「人」
「環境」

取り組みのポイント

- 1 CSR意識の浸透
- 2 リスクマネジメントと内部監査機能の強化
- 3 環境取り組みの高度化
- 4 万全な安全管理の実施
- 5 人権/人事施策の充実

また、「当たり前のことを当たり前にやる」というコンプライアンスをベースとする基本的な社会的責任と、より積極的に社会のニーズを満たし、持続的な社会の実現に向けて付加価値を創造する社会的責任の両面から、取り組みを進めてまいります。

Top message

地球規模で求められる
社会的責任を果たすために
皆さまから信頼される誠実な経営を実践します



私たちは、環境への取り組みを経営の最重要課題のひとつと位置付けるとともに、「環境で選ばれるコスモ石油グループ」となることを目指して、事業活動から発生する環境負荷の低減や環境リスクへの対応に尽力しています。

石油の大量消費が地球環境に大きな負担を強いてきたことを確認した上で、お客さまと一体となった環境活動を推進、地域社会やNPOなどと共同で地球環境保全プロジェクトを展開するなど、持続可能な社会の実現に向けたさまざまな取り組みを進めています。



経済発展の続くアジア地域のエネルギー消費は、「世界経済のリスク」と称されるほどの原油価格の高騰をもたらすと同時に、地球全体に大きな環境負荷を与える深刻な事態となっています。

コスモ石油グループでは、原油開発事業の強化および石油・石油化学製品の安全で安定的な供給を通じて旺盛な需要に応えるとともに、環境保全意識の醸成に向けた活動を積極的に推進し、エネルギー企業としての責任を果たしてまいります。

一方で、企業倫理やリスク管理、コンプライアンスが今ほど強く求められている時代はありません。コスモ石油グループでは、企業倫理・安全確保の徹底を企業活動の原点として位置付けてきましたが、さらにグループ全体の危機管理意識の向上を図ることを目的に、リスクマネジメント委員会を設置することにしました。

皆さまから信頼される誠実な経営を実践するとともに、従業員一人ひとりがコスモ石油グループの一員であることに誇りを持ち、日々業務の中でコンプライアンスの重要性を理解して、自発的に行動する企業風土づくりにより、いっそう尽力してまいります。



この冊子は、コスモ石油グループのお客さまをはじめ、幅広い方々とともに、地球環境について考えるきっかけとなるために発行しました。私たちの活動を継続的に改善していくためにも、皆さまのご意見やご指摘をいただければ幸いです。

コスモ石油株式会社
代表取締役社長 木村 彌一

木村 弥一

環境関連の出版物

■ テール

「人の叡智を未来へとつなぐ環境文化誌」をコンセプトに2004年3月に創刊しました。過去に生きた人々、現代を生きる人たちの偉大な生き方や考えを「環境」という切り口で、深く掘り下げていきます。



■ 地球環境ブック ～未来の地球人 子どもたちへ

当社の環境教育プログラムのほか、小学校の「総合学習」の副読本として、環境保全活動を実践する48人の方々からのメッセージを1冊にまとめました。



■ コスモ・ザ・カード「エコ」活動報告書

コスモ・ザ・カード「エコ」会員のお客さまとともに進める地球規模の環境保全活動、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトの活動を報告しています。



■ サステナビリティレポート

コスモ石油グループの経営理念を実現するためのビジョンや取り組みをまとめた報告書です。2004年度から発行を始めました。

2001年度から発行している「環境報告書」の内容も、このレポートに含まれています。

本誌「グリーンレポート」は、サステナビリティレポートのダイジェスト版になります。

「コスモ石油グループ サステナビリティレポート 2005」は9月発行の予定です。



サステナビリティレポート

コスモ・ザ・カード「エコ」で、「環境にいいこと」始めませんか？



コスモ・ザ・カード「エコ」

コスモ・ザ・カード「エコ」は、「地球のために何かしたい」というお客さまの気持ちと、「当社の環境保全活動に多くの人にご参加いただきたい」というコスモ石油の気持ちが一つになって生まれたカードです。入会時および次年度以降の入会月に **500円** の **寄付金** をお預かりし、それにコスモ石油からの寄付金を加えて、**5～6ページ** で紹介しているプロジェクトを支援しています。

○入会および従来のコスモ・ザ・カードからの切替の特典

初年度エコ入会感謝50マイルプレゼント
(SS店頭で新規ご入会の場合はさらに50リットルまで10円/ℓをキャッシュバック)
有料道路がスムーズに通過できる
ETC機能を無料で付加*
各種環境セミナーへの優先参加

○入会、切替ご希望の方は

カードセンター TEL:045-450-5300 までお問い合わせください。
*ETC機能をご利用いただくには、別途車載機をご用意いただく必要があります。



30%
Minimum
SGS-COC-1466

この印刷物に使用した用紙は木材繊維の30%以上が、FSC Forest Stewardship Council: 森林認証協議会)の規定に従い独立した第三者機関により適切に管理されている認証された森林から生産されたものを使用しています。

FSC Trademark © 1996 Forest Stewardship Council A.C.



発行2005年6月